

～福島第一原発事故から11年～

福島第一原発事故の避難者は、子どもたちへの被ばくを避ける一心で、母子避難、父子避難、あるいは世帯全部の避難を余儀なくされてきました。

では、その子どもたちは当時どう感じ、大きく変わった生活についてどう受け止めてきたのでしょうか。11年経ち成長した子供たちが発信を始めています。

子どもだった原発被害者が

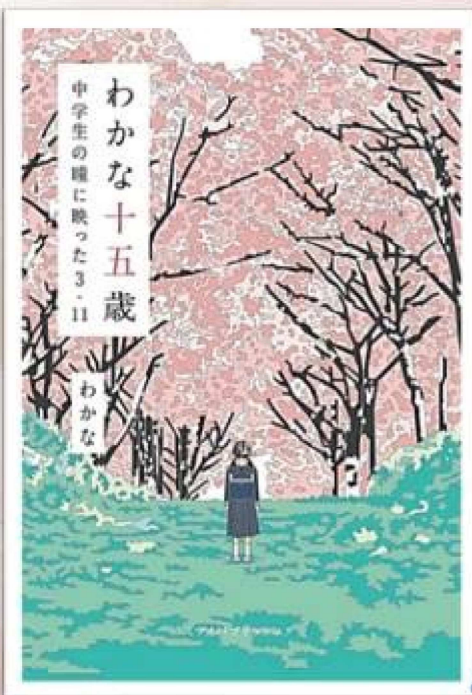
今語り始めていること。

### 第1部 講演

#### ◇わかかなさん

「わかかな十五歳 中学生の瞳に映った3・11」の著者。中学卒業式が間近だった15歳の時、福島県伊達市から山形県に避難。2015年より北海道在住。現在は北海道各地で経験を伝える講演活動を行う。

### 第2部 ディスカッション



参加費無料

申込不要

2022年7月23日(土)

場所: 寿都町ウイズコム大ホール

開場: 13:30 講演: 14:00～16:00

主催: 子どもたちに核のゴミのない寿都を! 町民の会  
問い合わせ先: kakugomino@gmail.com